



ドクター板東の メディカルリサーチ

～歴史から 命を思索 クロアチア～

Vol. 79

<http://pianomed-mr.jp/>

あなたは、クロアチアと
いう国をご存じだろうか？
日本ではそれほど知られて
いないが、世界ではサッカ
ー強国として有名だ。

首都チーム、以前のクロ
アチア・ザグレブに、三浦
知良選手が所属したことが
ある。このたび出張で同国
を訪れたとき、人々が彼の
活躍を覚えていてくれたの
は嬉しかった。

今回私はクロアチアで開
催された医学会に参加し（図
1）、医学だけではなく、
国の存在や平和についても
考える機会を得たので、触
れてみたい。

プライマリ・ケア医学

医療が行われている場所

について考えてみたい。お
おむね、大都市や地方都市、
地域、僻地と分けることが
できるだろう。

ただし、我が国では、救
急車で30分～1時間走れば、
どこの医療施設に到着で
きる場合が多い。この意味
では、雪に閉ざされた山岳
地帯や台風が襲来したその
日の離島などを除き、真の

僻地医療というケースは稀
と思われる。

一方、諸外国では事情が
異なる。医療を受けられず、
日本では想像もつかない僻
地が存在する。そのため、
プライマリ・ケア医学の中
でも、地域～僻地医療の実
践や教育について、全く別
の議論が必要となる。

我が国では長年、プライ
マリ・ケア医学の必要性が
叫ばれてきた。最近は、総
合内科や総合医と呼称も広
がってきた。

諸外国でも同様だが、
呼び方が多少異なる。米国
では家庭医療（family
medicine, FM）、欧州では
総合医療（General
Practice, GP）が一般的だ。

クロアチアでは、総合診療
をGeneral practice (opc
a praksa) と呼ぶ。
従来、プライマリ・ケア
医の世界的組織として世界
家庭医会議（WONCA）
が知られてきた。その関連
学会として、欧洲地域僻地
医療学会（EURIPA）がみら
れる（図2）。

図1



Rural Health 大会がクロ
アチアの西岸、アドリア海
を臨むパグ島で開催された
(図3)。都会から離れた会
場で、参加者同士が数日間
にわたり親交を深め議論を
続けられる、貴重な機会で
ある。

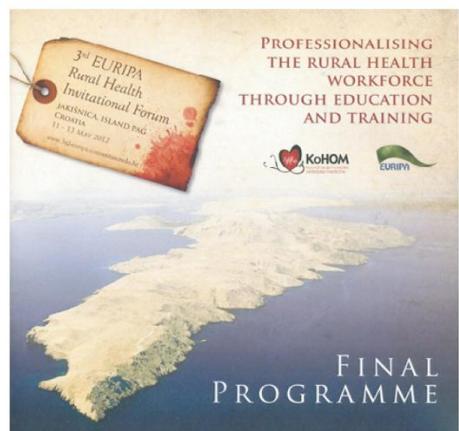
学会で興味あるレクチャ
ーがあった。タイトルは「地
域医療と軍隊医学」につい
て。欧米では地域医療に魅
力を感じる医師は少ないの
が実情である。同様に、軍
隊に入り、軍隊医療に従事
して継続しようとする医師
も少ない。

このように、両者には類
似点がある。このような發
想は、日本人ではまず思
つかない。しかし、東欧で
は、歴史的な観点から、政
治や経済、軍事などが複雑
に絡み合ってくる。

両者による比較検討を表
1、2にまとめてみたので
参考にされたい。



図2



クロアチア

まず、欧洲の地図をご覧頂きたい（図1）。イタリアの東側にあるアドリア海を隔てて、クロアチアがある。その北にはセルビア、南にはボスニア・ヘルツェゴヴィナが隣接するのだ。

かつて多民族国家のユーゴスラビアがここに存在した。後に「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国家」といわれ、様々な紛争が勃発し、独立国が新たに誕生したのである。

詳細を調べると、島国で单一民族の日本とは異なり、



図5

いずれの国も平和を保つのは容易ではない。

私は同国の歴史博物館を訪れた。入口では常に警備兵が守り、物々しい雰囲気である（図4、5）。中に足を踏み入れると、その雰囲気にハッとした。ある程

る程度予想していたが、同国の歴史で重要な点は、近隣諸国との複雑な関わり合いとなり、わかりやすく表示すると、表現がストレートにならざるを得ない。ちょうど、課外授業の小学生たちと一緒にとなった。彼らはどう感じどう考えているのであろうか。

今回の出張で、「その地域は本当に大丈夫か」と知人らが心配することに。確かに不安定な時期もあったが、現在は治安が良く大きな問題はなさそうだ。

人々の生活

1980年代後半のこと、私はある医学会でユーゴスラビアの教授の講演を和訳

1989年創業で地域住民と苦楽を共にしてきたレ

通常は簡潔明瞭な英語だが、なぜか曖昧模糊とした表現を不思議に感じていた。

その後1990年代前半に、当国の各共和国が独立していく。思い返すと、社会事情も考慮し、意図的にそうしたのかもしれない。

人間が生きていく上で、

國同士のレベルの問題もある。僻地で変わりない毎日を送る人々も多い。

今回、学会会場の近くで、

ストラニを訪れた。すると、

女児の洗礼のため親族が集

まり祝宴が行われていた（図6）。我々はカウンターで

チーズとビールを楽しみつ

つ、古き良き伝統や暮らしに触れることができた。

また、ザグレブの中心部には人々の胃袋となる市場

がある。活気に溢れ誰もがたくましく生きている様子がうかがわれた（図7）。

同国は2013年7月に28番目のEU加盟国となる見通しだ。今後安定した発展を祈り期待したい。



図4

表1 地域医療と軍隊医学の類似性

低い魅力性

医療関係者（医師）の不足

どのような成果をあげられるか

この領域の魅力を明らかにするか

仕事上のプライドをどう作り出すか

義務年限後にどう仕事に留まるか

表2 総合医／軍医の展望

1) Vision

治療に優れているか

医学研修に優れているか

研究の遂行に優れているか

2) Mission

毎年卒業する医学生を担当

地域医療／軍隊医学の情報を統合

ユニークな地域医療／軍隊医学の研修内容

3) Values

我々がユニークな点は何か？

将来、我々はどんな足跡を残したか？

この職種の将来はどう開けるか？

どう我々は変革できるのか？



図6



図7

（板東浩、ばんどうひろし、

医学博士、糖尿病専門医、

ピアニスト）